徳之島の世界自然遺産 現状と課題

島の宝を守り伝えるために

島の宝を守り継ぐ活動を続ける中で、様々な課題が浮き彫りになっています。

徳之島が世界自然遺産に登録されてから三年目の年を迎えました。島の宝を守り継ぐ活動を続ける中で、様々な課題が浮き彫りになっています。

クロウサギのロードキル問題

事故数が過去最多だった二〇二二年、一年間で起きたクロウサギのロードキルは、徳之島だけで四〇件。二〇二三年の事故数は十一月末時点で二六件とやや減少したものの、それでも過去二番目に多い年となりました。クロウサギの他にも、ケナガネズミやトゲネズミ、イボイモリなどのロードキルも発生しています。ロードキルは、島民一人ひとりが気を付ければ、なくすことができます。特に夜間の運転は、スピードを落として安全運転を徹底しましょう。

ノネコと外来種の問題

昨年五月、特定外来種シロアゴガエルが島内で初確認され、大きな問題となりました。二〇二四年はシロアゴガエル駆除が正念場を迎え、徳之島で根絶できるか明暗が分かれる年になるかもしれません。こうした外来種は、生態系を壊したり、自然環境を悪化させたりと、たくさんの問題を引き起こします。私たちの身近な存在であるネコも、外来種のうちのひとつ。昼間は集落内でエサをもらっているネコが、夜は森に入ってクロウサギを追いかけています。

▲2022年、母間林道に設置したカメラに写ったネコ。
環境省徳之島管理官事務所 提供

こうした外来種問題の原因は、ネコやカエルにあるのではなく、私たち人間にあります。

盗くつ・盗採の問題

徳之島にはたくさんの希少な植物が生息しています。ほとんどの人が自然の中で観察し、大事にしているはずですが、中にはルール違反をする人も。昨年は、ダイサギソウとトクノシマカンアオイの盗掘がありました。どちらも絶滅危惧種に指定され、法律で採取が禁止されています。また植物だけではなく、クワガタを始めとする昆虫の乱獲と島外への持ち出しも問題になっています。こうした行為から島の自然を守るには、一人ひとりがルールを守るのはもちろんですが、怪しい人がいないか、異変がないかなど、自然を見守る島民の目が大切です。

その他にも、ゴミの不法投棄や外来植物の持ち込み・繁茂、エコツアーガイドの不足など、まだまだ課題は山積しています。

世界に誇れる島の宝は私たちの暮らしのすぐそばにあるけれど、現状や課題は意外と知られていません。まずは、島民みんながその価値に関心を向け、「知ること」が大切です。そしてそれらを行動に移すことが、島の宝を守り伝えるため、私たちにできることだと思うのです。

#22

NPO法人
徳之島虹の会
☎ 0997-86-3575
✉ shimaniji@gmail.com